

移住者の皆さんが集いました モチヨルバルで交流



ハロウィンパーティ風に飾られた会場。写真は個性豊かな近況報告のリレーが続いた一場面です

10月5日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村地域おこし協力隊の松本奈々さん(深谷)が2回目の「モチヨルバル」を開きました。今回は、移住者の皆さんが、「持ち寄り」をしながら交流するという企画。村の移住相談室との共催です。当日は、震災後に村へ移住した17人が集まり、それぞれ自己紹介や近況報告をしながら、会話と食事を楽しみました。また、菅野村長も出席し、改めて歓迎の言葉を述べて参加者と交流。参加者同士も情報を共有しながら、和やかな時間を過ごしました。

認知症への理解を深めて 支える人をみんなで支えよう

9月27日、交流センター「ふれ愛館」で、「認知症サポーター養成講座」を開きました。講座では、郡山市医療介護病院看護部長の宗形初枝さんが講師を務め、認知症という病気の成り立ちや、患者との接し方などについて講演。「村には支え合う暮らしが備わっています。認知症の方を支える家族を支えるのが地域です」と、周囲の理解・協力の大切さも伝えました。この日は引き続き、宗形さんも加わって、認知症の方を支える家族が思い語り合う「ゆずカフェ」も開かれました。



村民と一緒に、村内事業者からの出席者も受講しました。円内は養成講座・講師の宗形さん

飯館村消防団 秋季検閲式 団員72人が集結しました



消防団員らが隊列をつくり、検閲官を務める菅野村長、消防団幹部が観閲を行いました

10月6日、飯館村消防団の秋季検閲式が行われました。会場は、雨天により、消防飯館分署前庭から、飯館中学校体育館に変更されました。式には、消防団員をはじめ、女性消防隊、役場消防隊の合わせて72人が参加しました。団員らは、機敏に隊列を作り、引き締まった表情で点検を受けました。また、高野進団長(八木沢・芦原)らが訓示し、村民の安全な暮らしを守るため、防火・防災に努めることを申し合わせました。式の最後には、団員の功績を讃える表彰も行いました。

賑わいづくり検討委員会 ワークショップを開催

役場の若手職員らでつくる「賑わいづくり検討委員会」は、今年7月から活動しています。9月29日には、交流センター「ふれ愛館」で、「第1回賑わいづくりワークショップ」を開きました。ワークショップでは、グループに分かれて、「スポーツ×村にあるものを活用」「産業×自然」「観光×新たな体験」をテーマに、自由な発想で話し合いました。発表では、「農業とスポーツを組み合わせた競技をつくらう」「アニメ映画をつくり、村をその聖地にしよう」など、多彩なアイデアが飛び交いました。



ワークショップに参加したのは、村内事業者・移住者・中学生に委員会のメンバーを加えた29人

男性のみでわいわいと 料理と花の講座を楽しみました



自宅周辺一帯に「マキバノハナゾノ」をつくる大久保さん(中央奥の左側)が講師を務めました

10月16日、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」が主催する「第2回男性のつどいin飯館」が、交流センター「ふれ愛館」で開催され、村内在住の男性が集まりました。午前中は、おにぎりや豚汁の調理に、スタッフを含めて男性のみで挑戦し、出来上がった料理をみんなでわいわいと味わいました。午後からは今回のつどいの参加者の一人である大久保金一さん(小宮)に講師となってもらい、花の寄せ植えと冬でも枯らさない花の育て方について学びました。

「村民の日」恒例の牛丼給食 園児が“までい牛”を味わいました

村の誕生日で「村民の日」にあたる9月30日、「までいの里のこども園」に「までい牛」の牛丼給食が登場しました。小林将男さん(関沢)が千葉県山武市で育てる「までい牛」は、飯館牛の血統をつなぐ和牛です。小林さんは、台風15号で被災したばかりでしたが、園の給食においしい牛肉を提供していただきました。子ども達は、先生方から、震災前の村でたくさんの牛が育てられていたこと、牛丼給食が村の誕生日の特別メニューであることなどを聞き、うれしそうに牛丼を味わいました。



甘い脂の牛肉に舌鼓。「おいしい!」「また食べたいな」